第三回　路上パフォーマンス

今回は道端で芸を披露する「ストリートパフォーマンス」について書こうと思うのですが、特に「歌モノ」に限ってみたいと思います。そして私が今まで見た中でも、立ち止まって長い時間見て、そのあと会話したことのある人たちシリーズ、でいきたいと思います。

その1　長渕剛もどき 編

['90年夏　大阪の路上にて]

道端で歌をうたってみせるとき、一番手っ取り早い楽器といえば、生ギター（＝フォークギター）でしょう。そしてこの生ギターを使って演る人種の中で、今一番多いのがこの「長渕剛もどき」じゃないでしょうか。

私が出逢ったこの「剛もどき」も、当然の如く長渕剛を神のように崇拝している信者の方でした。私よりも2才年上で、髪の毛はボサボサ、小汚い格好でいかにもという雰囲気を醸し出してる人でした。

さて、何故この「もどき氏」を紹介したいかというと、その人の歌があまりにも「下手くそ」だったからです。聞くにたえない声で長渕剛の曲をオンパレードで弾き語っていました。だから逆に立ち止まって聞く　いや、見てしまったのです。ひと段落ついたところで、私は思い切って興味津々に喋りかけてみました。その人が言うには、こうです「剛の唄には魂があるね。叫びにも似た声で自分の思いや社会に対する怒りを唄にする。最高や」……全くもって同感である。長渕剛の唄にはそれくらいの凄みがあると、私も思う。しかし、うなづけないのは次だ。「俺も、この歪んだ社会を変えたいし、世の中の波に流されず、自分自身を見失わない為にも歌っている」……ギャグかと思った。そう思うのは勝手である。しかし言わせてください。「それやったら人の唄ばっかり歌わんと、己の表現でやらんかい!!　大体、人の唄歌って歪んだ社会を変えるっちゅう考え方自体が世の中の波に流されとんのと違うんかい!!　思い切り自分自身を見失っとるやないかい!!　ゴチャゴチャ言う前に歌練習せぃ!!」

その2　ブルースマン 編

[89年秋　ニューヨークの路上にて]

自慢っぽくは聞こえて欲しくないですが、私は一度「ニューヨーク」に行った事があります。だから人は私の事を「ニューヨーク帰りのテツ」と呼びます。フッ…。次はその時見た外人のブルースマンについて書きます。　そのブルースマンは2人組で、チープなアンプにエレキギターを2本つなぎ、生声で歌っていました。「おぉ、外人が演っとるとさすがに渋いなぁ」なんとなく立ち止まってしばらく見ていると、なんとその外人が私に話しかけてきました。

「よぅ、そこの彼。どうだい、俺達のブルースは」

おそらく、そのような事を言ったんだと思います。私はためらわず、

「オォ、ベ、ベ、ベリーグッド」

と、流暢な英語で返してやりました。するとそのあとどんどん喋ってくるではないですか。

「君もブルースがすきなのかい?」

「イ、イエス。アイライクブルース」

「何か楽器をやってるのか?」

「ア、ア、アイプレイベース」

「そうかベースか。いいねぇ。今ココにベースギターはないけれど、どうだい、このギターでも弾いてみるかい?」

「ノノノノ、ノーデスヨ」

「じゃあセッションしようか。一緒に歌いなよ」

「オォ、アイムソーリー、ビゲソーリー。アイアムベリーベリービジー」

私はギターケースにコインを投げ、さりげなく「グッドバイ」を決め、逃げるようにそこから立ち去りました。……ウソのような、ホントの話です。

その3　ア・カペラ隊 編

['94冬　東京新宿の路上にて]

このア・カペラ隊はしかし皆さん、カッコ良かったですよ〜。大学生くらいの男4人組だったんですが、回りに人集りがワンサと出来るほどでした。キビしい見方をすれば、音程があやしい瞬間も確かに少しありましたが、そんな事よりも、この日本の路上で渋いア・カペラをするというのがカッコイイじゃないですか。全員衣裳を赤のジャケットで揃えて、ポール牧風に言えば「指パッチン」して「So Much In Love」や「Alone」など往年のヒットソングを歌っていました。

全曲歌い終えてから話をしに行ったんですが、別にプロを目指しているわけでもなく、ただハーモニーが好きだから、という理由だけで時々路上でやっているそうです。ひぇ〜、これまた「超渋」ですな。私も普段アホな事ばかりしておりますが、こんな事も実はやってみたいと思ってたりするんですよ、皆さん。

私は、その時の時間が許されれば、どんなパフォーマンスでも見たがるほうです。で、いつも、やる方はしかし度胸がいるなぁと思うのですが、じっくり見ていると、なんとなくその人の生活や人生のバックボーンが見えてくるような気がします。

上手い下手はもちろんありますが、ストリートパフォーマンスに出逢ってもし時間がある時、その人の生活や人生を考えつつ、どうぞじっくり、いっぺん見てみぃ!?

【題字・イラスト】アキレスKEN

ICHIBANBOSHI TETSUYA

【プロフィール】
京都市生まれ。本業はミュージシャン。
ベースとリーダーを担当。
ノイズファクトリーの2ndシングル『星も凍る夜』2ndアルバム『ノイズファクトリー〜パール7〜』好評発売中。